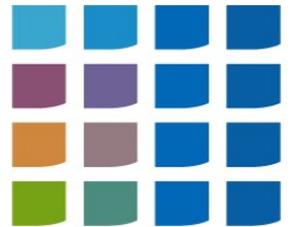


日本教育心理学会 第64回大会



個と組織を生かす

社会人が学び始めるきっかけに関する実態と考察 1

2022年8月10日－9月10日

株式会社リクルートマネジメントソリューションズ

組織行動研究所

○佐藤裕子 今城志保 山田香

組織行動  研究所
Institute for Organizational Behavior Research

 RECRUIT
リクルートマネジメントソリューションズ

問題と目的

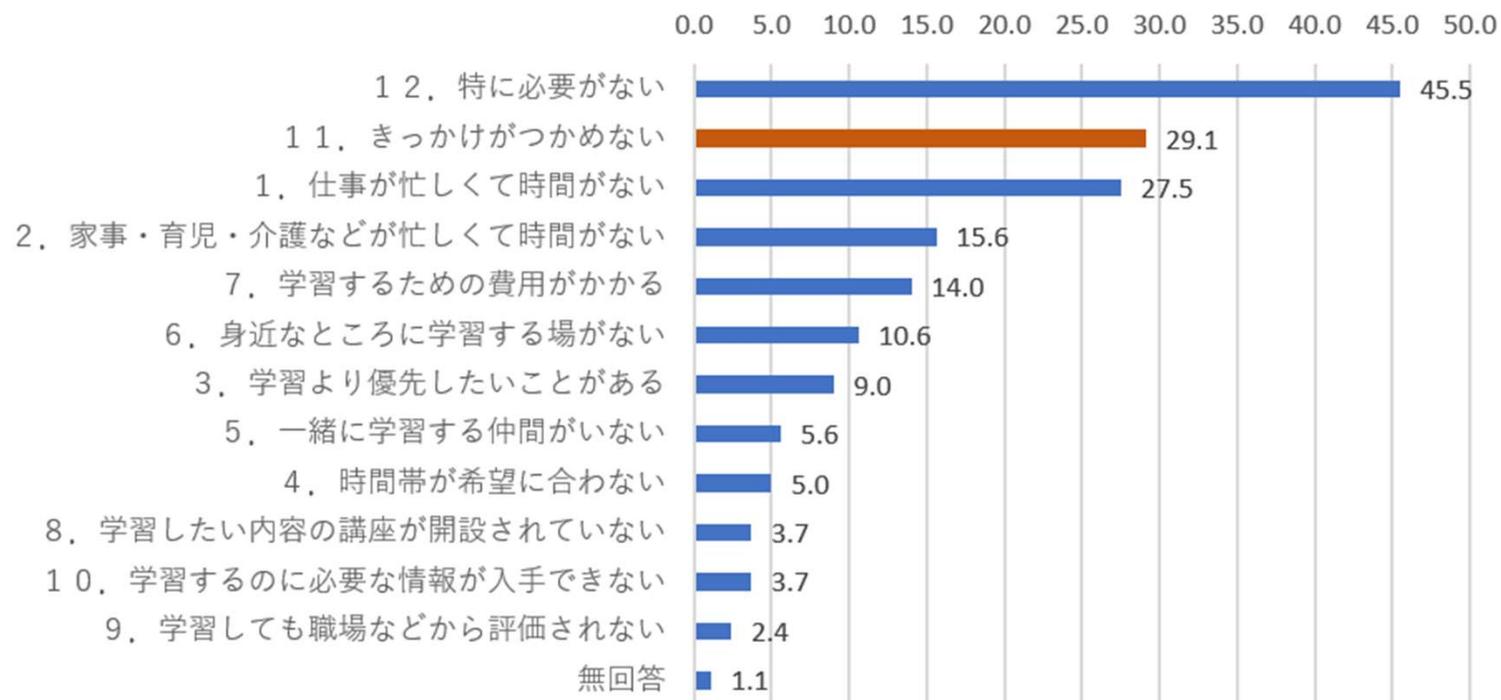
■ 学習を始めない理由

20歳以上の日本人を対象

(複数回答)

(この1年くらいの間に、月に1日以上「学習していない」と答えた者に、複数回答)

(%)



出所：内閣府(2022). 生涯学習に関する世論調査

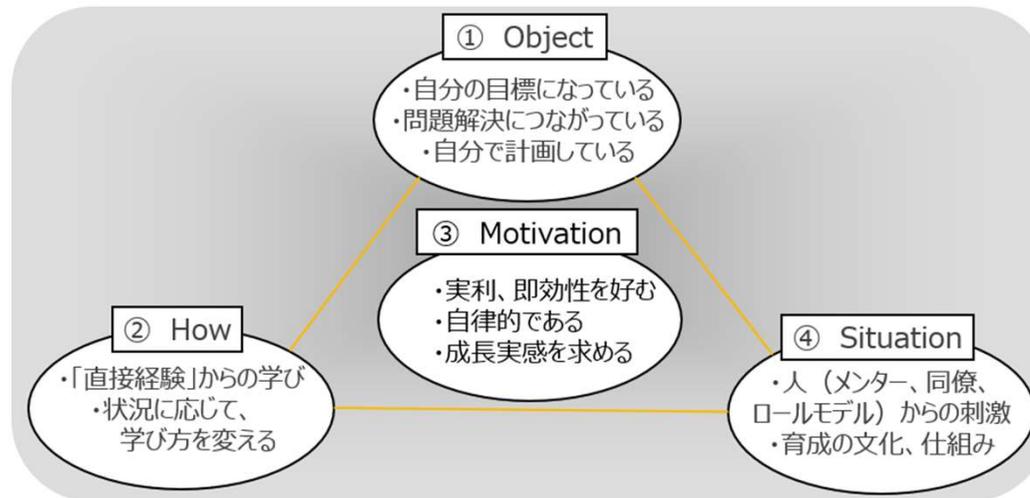
問題と目的

- いったい社会人が自発的に新たな学びを行う時に、どのようなきっかけで学習対象を見つけ、学習に取り組み始めるのだろうか。

1. ノールズ（1968）の提唱したアンドラゴジー

成人の学習は、直面した問題の解決に役立つものに方向付けられる

→社会人の場合、仕事やプライベートで解決したい問題があることがきっかけとなり、学習を始めることが多いだろう。



出典：「成人教育の現代的実践-ペダゴジーからアンドラゴジーへ」マルカム・ノールズ著、堀薫夫・三輪建二翻訳（鳳書房、2008年）

問題と目的

2. 波多野・稲垣（1973）「知的好奇心」

人は生来、たまたま出会った刺激や情報がきっかけとなり、それに興味を持って知的な探索を始める性質を持つ

→社会人の場合も、そのように知的好奇心が刺激され、特に実用上の必要はなくても学び始めることがあると考えられる



3. Krumboltz.J.D（1999） プラントハップンスタンス理論

キャリアの8割は偶然の出来事で決まる

→学習においても、何かに生かす見通しはなくても、なんとなく面白いと感じて学習を始めたことが、後に生きてくる可能性は、今日高まっていると考えられる



問題と目的

■ 研究の目的

自発的に学習を行う社会人はどのようなきっかけで学習を始めているか、きっかけの違いで学習への態度（学習エンゲージメント）やそれに影響する要因はいかに異なるかを明らかにしたい。

→ 「実用」と「興味」の2つの方向性の違うきっかけに着目し、下記の3点を検討する。

- A) 2つのきっかけ群（実用群と興味群）の出現率に差はあるか
- B) 両群で学習エンゲージメントに差があるか
- C) 両群で学習エンゲージメントに影響する要因に差はあるか

方法（インターネット調査）

■ 時期

2023年2月（調査会社を用いてインターネット調査を実施）

■ 対象

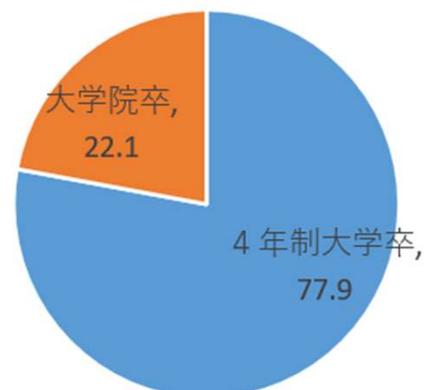
「ここ1年の間に、自ら興味をもって自発的に新たに学び始めたことがある」従業員300名以上の企業で働く25～54歳(平均40歳)の大卒・大学院卒正社員403名



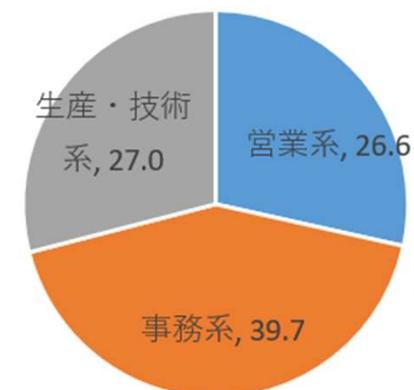
性別



役職



学歴



職種

方法（インターネット調査）

■使用した変数

●学習のきっかけ

「仕事やプライベートで解決したい問題があった」「なんとなく面白そうだと思った」から複数選択

- 「仕事やプライベートで解決したい問題があった」のみを選択した群を実用群（n=89）、「なんとなく面白そうだと思った」のみを選択した群を興味群（n=108）として使用

●学習エンゲージメント

「それを学ぶことに熱中して取り組んでいた」など
3項目6件法を尺度化（ $\alpha = .95$ ）

没頭・行動

活力・感情

熱意・認知

1 それを学ぶことに熱中して取り組んでいた

2 それを学ぶ取り組みから活力を得ていきいきしていた

3 それを学ぶことに意義ややりがいを感じた

●学習領域

7択肢から単一選択

1 ビジネス知識・スキル

2 IT

3 語学

4 投資

5 生活・文化

6 スポーツ

7 その他（ ）

方法（インターネット調査）

●自己調整行動

「計画」「統制」「省察」に該当する3項目から複数選択

計画
統制
省察

- 1 明確な目標や目的があったから
- 2 うまく時間を捻出できたから
- 3 自分の成長を実感できたから

●知的好奇心

西川ら（2015）の拡散的／特殊的好奇心
尺度から各4項目6件法（ $\alpha = .89, .85$ ）

拡散的
拡散的
拡散的
拡散的
特殊的
特殊的
特殊的
特殊的

- 1 今までにやったことのない課題にも喜んで取り組める
- 2 新しいことに挑戦することは好きだ
- 3 どこに行っても、新しい物事や経験を探す
- 4 誰もやったことのない物事にとっても興味がある
- 5 予期しない出来事が起きたとき、原因がわかるまで調べる
- 6 解答を理解できないと気持ちが落ち着かず、なんとか理解しなければと思う
- 7 物事を学ぶときには徹底的に調べたい
- 8 はっきりとした明快な答えがでるまでずっと考える

●努力の粘り強さ

竹橋ら（2019）のグリッド尺度日本版から4項目6件法（ $\alpha = .82$ ）

- 1 私は頑張り屋だ
- 2 始めたことは、どんなことでも最後までやりとげる
- 3 数年にわたる努力を要する目標を達成したことがある
- 4 私は精魂傾けてものごとに取り組む

結果A 2つのきっかけ群（実用群と興味群）の出現率に差はあるか

■ 403名のうち、実用群22.1%、興味群26.8%で、両群の出現率に有意な差はなかった

- 学習領域別では、「投資」のみ5%水準で興味群が有意に高く、「ビジネス知識・スキル」「IT」「語学」他では、2群に差は見られなかった。

Table 1 学習のきっかけとエンゲージメント

	実用群 (n=89)	興味群 (n=108)
全数 (n=403) に対する出現率	22.1%	26.8%
エンゲージメント (1-6)	3.69	3.92

Table 2 学習のきっかけと学習エンゲージメント (学習領域別)

学習領域	ビジネス知識・スキル		IT		語学		投資		生活・文化		スポーツ		全体 (その他20名含む)	
n	128		49		81		54		37		34		403	
	出現率	エンゲージメント	出現率	エンゲージメント	出現率	エンゲージメント	出現率	エンゲージメント	出現率	エンゲージメント	出現率	エンゲージメント	出現率	エンゲージメント
実用群	28.9%	3.59	20.4%	3.50	27.2%	3.86	13.0%	4.19	21.6%	3.88	11.8%	3.08	22.1%	3.69
興味群	23.4%	4.30	28.6%	3.76	22.2%	3.33	31.5%	4.12	29.7%	4.00	29.4%	3.70	26.8%	3.92
全数	3.84		3.55		3.79		3.98		4.32		3.47		3.81	

割合の差の検定

p=.02

結果B 両群で学習エンゲージメントに差があるか

- 全数でも学習領域別でも、両群の学習エンゲージメントに有意な差は見られなかった
(全数:実用群3.69, 興味群3.92)

Table 1 学習のきっかけとエンゲージメント

	実用群 (n=89)	興味群 (n=108)
全数 (n=403) に対する出現率	22.1%	26.8%
エンゲージメント (1-6)	3.69	3.92

Table 2 学習のきっかけと学習エンゲージメント (学習領域別)

学習領域	ビジネス知識 ・スキル	IT	語学	投資	生活・文化	スポーツ	全体 (その他20名 含む)
n	128	49	81	54	37	34	403
	エン 出現率 ゲージ メント						
実用群	28.9% 3.59	20.4% 3.50	27.2% 3.86	13.0% 4.19	21.6% 3.88	11.8% 3.08	22.1% 3.69
興味群	23.4% 4.30	28.6% 3.76	22.2% 3.33	31.5% 4.12	29.7% 4.00	29.4% 3.70	26.8% 3.92
全数	3.84	3.55	3.79	3.98	4.32	3.47	3.81

割合の差の検定

p=.02

結果C エンゲージメントに影響する学習動機

- 実用群では学習エンゲージメントに対して自己調整行動の影響が確認され、興味群では2つの好奇心と粘り強さの影響が強く確認された

Table 3 エンゲージメントに影響する要因

エンゲージメント	実用群			興味群		
	H群 (n=44)	L群 (n=45)		H群 (n=64)	L群 (n=44)	
計画：少し先までの目標や計画をたてて始めた	77.3%	42.2%	**			
統制：うまく時間を捻出できた	54.5%	33.3%	*			
省察：成果や効果を確認しながら進めた	59.1%	37.8%	*			
拡散的好奇心 (1-6)	3.13	2.66	**	3.30	2.80	**
特殊的好奇心 (1-6)				3.49	2.91	***
努力の粘り強さ (1-6)				3.15	2.80	*

*** p<.001 ** p<.01 * p<.05 (カイ二乗検定、分散分析)

考察

- 社会人の自発的な学びにおいて、実用群に見られるように、解決したい問題があることをきっかけに、計画・統制・省察のサイクルを意識的に回して学習を進めるのも一つの学び方だが、興味群に見られるように、より気軽に、面白そうという気持ちをきっかけとして素直に学び始めるのも、もう一つの方法だということを確認できた。
- 知り合いや会社に紹介された、テレビで見かけたなど、ちょっとした機会をとらえて学び始めることも、充実した学習経験につながり得る。
- それには外部とつながりを持ち、ふとしたワクワク感や違和感を逃さぬよう柔軟でいることや、後回しにせず行動してみる事が大事だろう。
- 今後は、このような興味重視の軽いきっかけで始まった学習が、深い学習につながる過程について、インタビュー調査を用いて、更に検討を進める予定である。